

令和7年度 自己評価及び学校評議員評価書

27012

令和8年3月25日
札幌市立西野小学校

1 本年度の重点目標

子ども一人一人の確かな成長 ～やさしさ えがお あこがれ はつらつ～

2 本年度の重点

- 1 知【学ぶ力の育成】 <考える子どもを育む授業> 「えがお」○一人一人に学ぶ力を育てる
・分かる・できる・楽しい授業への工夫・改善 ・学び方の定着 ・ICTの効果的な活用
- 2 徳【豊かな心の育成】 <やさしい子どもを育む関わり> 「やさしさ」「あこがれ」○気付く・感じる・判断する力を育てる
・道徳教育の充実 ・表現活動の充実 ・体験活動の充実
- 3 体【健やかな体の育成】 <強い子どもを育む環境づくり> 「はつらつ」○健康を大切にし、体力を高める力を育てる
・体育・健康の両面バランスの取れた指導の充実 ・体力向上につながる環境づくり
・養護教諭・栄養教諭との連携

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

<◎、A:十分達成 ○、B:達成 △、C:不十分>

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価と今後の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
自ら学ぶ力	①子どもたちは、自分の考えをはっきり話している。	A	○保護者は94%、児童は87%が「できている」と回答。教職員は94%。 ○日々の授業や生活の中で、交流場면을積極的に設定したり、全員発表や指名発表、クロムブックでのまとめや交流などを効果的に行ったりして、子ども同士の関りをつくっていく。	A	A
	②子どもたちは、自分から学習や当番活動に取り組んでいる。	B	○児童93%、教職員は82%、保護者は約82%、児童と学校で違いが大きい。 ○「自分から」という意識を大切にし、工夫や発想を生かして取り組む向上心を育んでいく。家庭学習においては、取組内容も例示しながら自分で考えていく場を大切にする。	A	A
学校関係者評価委員による意見		児童、保護者、教職員と、多少の差異はあるものの、80%を超える肯定的な捉えをしていることは成果と言える。「自分から」という視点を大切に取り組まれていることで、子どもたちの学びが深まっていることが窺える。			
共に生きる力	③子どもたちは、安全に気をつけ、ルールを守って生活している。	B	○児童は96%、保護者は69%、教職員は76%ができていると評価。 ○校内でのルールの徹底のほか、登下校時に歩道を歩く指導を徹底する。日常生活における「安全」「危険」について、自ら考える指導を行っていく。	B	B
	④家の仕事（お手伝い）に取り組んでいる。係や当番、委員会の仕事に取り組んでいる。	A	○児童は95%、保護者は94%ができていると評価。教職員も90%で高い結果。 ○学校生活において、みんなのために動いたり働いたりすることの価値付けを行い、自分たちで生活をよりよくしようとする意識を育てる。	A	A
学校関係者評価委員による意見		保護者の割合が低く出ていることが気になる。4月からルールも変わるので、自転車指導もさらにしっかりしたほうがよい。ルールについては継続的な取組、手伝いについては支援内			

		<p>容が適切である。③について、児童と児童以外で評価が大きく乖離している。保護者及び教職員が評価した「児童ができていないこと」を分析し、児童に対して具体的に教示することが有用を考える（教員や地域による登下校時の交通ルールの徹底は、従前から十分に行われていると認識している）。</p> <p>自らの役割を果たすことの大切さを身に付けることで、社会性が育まれていると感じる。</p>			
強くたくましい体	⑤子どもたちは、進んで運動や体力づくりをしたり、外で遊んだりしている。	A	<p>○児童は87%、保護者、教職員の評価は94%。校内で様々な運動ができるよう、体力づくりコーナーを設け、子どもたちが楽しみながら体力づくりを行えるようにした。</p> <p>○これからも全校で「1日1回外遊び」に取り組む。教師も一緒に遊ぶことを大事にする。また、放課後の遊び方や運動機会の確保について懇談会などで話題にし、意欲付けを行う。</p>	A	A
	⑥子どもたちは、健康に気をつけて生活している。	A	<p>○児童は94%、保護者は87%、教職員は100%ができていると評価。</p> <p>○手洗い・うがい、教室の換気など予防に向けた取組を徹底し、感染症が蔓延することは少ない。1日1回の外遊びも継続していきたい。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>80%以上の肯定的な捉え、特に、教職員の数値が高く、指導の実感につながっていると考えられる。⑥について、教員と保護者で評価が分かれているが、学校と家庭で評価しているポイントが異なるのか確認してもよいかと考える。様々工夫により、健康な体を作ることへの意識が高まっていると感じられる。</p>				
豊かな心の育成	⑦子どもたちは、進んで本を読んでいる。	A	<p>○児童の87%、保護者、教職員の94%ができていると回答。開放図書館もその一役を担っている。</p> <p>○今後も開放図書館との協力、学級活動部の図書指導、先生方による読み聞かせ放送、委員会活動での「読書」の取組など様々な工夫により本に親しむ機会を増やしていく。</p>	A	A
	⑧家族や友達に挨拶している。	A	<p>○児童の98%、保護者の92%、教職員の95%ができていると評価。</p> <p>○学校での挨拶向上に向けた取組を土台として、地域や家庭でも挨拶ができるよう継続した指導を行っていく。また、100%に近づくよう意識付けを行う。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>識字率向上のためにも読書習慣がついているのがよい。挨拶は人間社会で必須なので継続指導していくとよい。どちらも継続的な支援の必要性を感じるとともに、取組の工夫が求められるが、学校としての姿勢を読み取ることはできる。読書を通して、思慮深く自他を大切にする心が育まれていると考える。</p>				
生活いじめ対応	⑨子どもたちは、「ありがとう」の気持ちを伝えている。	A	<p>○児童の97%、保護者の94%、教職員の88%ができていると評価。和太鼓の指導をはじめ、様々な場面で地域の方にお世話になった。</p> <p>○委員会活動や異学年交流などを通して、お互いに感謝する場面を今後もつくとともに、挨拶同様、日常的に伝える習慣をつくる。</p>	A	A

	⑩子どもたちは、いじめや意地悪・悪口を許さないと考えている。	A	○児童の93%、保護者の97%、教職員の95%ができていると評価。 ○いじめはどんな理由があっても許すことができないことであることを毅然とした態度で話していくなどして、100%を目指していく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	敬う気持ちや感謝の気持ちを伝える習慣をしっかりと継続してほしい。いじめについては100%を目指す必要があり、しっかりと記載されている。一部の児童の言葉遣いが気になる。強めの口調や否定的な言葉など、粘り強く指導していきたいと考える。				
地域連携・ 環境	⑪子どもたちは地域の方に挨拶している。	A	○児童の91%、保護者の94%、教職員の88%ができていると評価。 ○地域との触れ合いを大切にしながら、自分たちも地域の一員であるという意識を高めていく。そのために総合や行事を活用していく。	A	A
	⑫子どもたちは、地域の行事に参加している。	A	○夏祭りで5・6年生が運動会で取り組んだよさこいを披露した。今後も、学校と地域が連携して多くの子どもたちが参加できるようにしていきたい。児童93%、保護者97%。 ○コミュニティスクールを見据え、次年度はさらに一歩進めた取組を行ってきたい。	A	A
	⑬子どもたちは、楽しく学校生活を送っている。	A	○児童92%、保護者95%、教職員100%と全て高い数値を示している。 ○保護者、教職員に比べて子どもの割合が低い。「シャポテン」などを活用して、子どもの声を拾えるように進んで関わっていく。	A	A
	⑭子どもたちは、運動会や生き生き学び発表会、全校集会等のイベントを楽しんでいる。	A	○児童は97%、保護者は98%、教職員は100%ができていると評価。どれも非常に高い数値を示している。 ○イベントの充実を図り、委員会などでも楽しい取組を行ってきており、次年度も継続したい。また、保護者にも子どもの様子を積極的に伝えていく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	地域では積極的に挨拶をする様子も見られ、挨拶されたこともあった。学校、保護者が思っている以上に児童はしっかりと挨拶していると感じる。学校経営の柱の一つとして「イベントの充実」を掲げており、⑭の項目において、非常に高い数値で肯定的な評価があるのは、全教職員の取組とともに保護者の理解と協力があるものと推察できる。今後CSの導入により、地域との連携が深まることを期待している。⑪、⑫について、児童の頑張っている姿は地域の方々に活力を与えている。今後も地域のつながりを大切にしていきたい。多様な活動や取組を通して、自治的な活動への意識の高まりを感じる。				

【その他の意見】

学校では守れていることも、学校を出ると気持ちが緩んでしまう様子も見られる。誰が見ても、見ていなくても自分を律する心を育ててほしいと思う。